

科目名 (科目番号)	解剖学Ⅱ (人体構造学) (時間割参照)	教員名 齋藤 基一郎	学科等	診療放射線	必修	履修年次	1
			曜日・時限等	時間割表参照		単位数	2
			オフィスアワー		—	非常勤講師	
授業概要	解剖学Ⅰに引き続き、運動器学の基本構造と成る骨格系、関節、筋系とそれらを支配する神経系を系統的に学ぶ。人体構造学概説である生命の特徴、高等動物の成り立ち(人体構造の階層性)、解剖学総論(解剖学用語、臓器の位置関係、体控)等を理解し、その構造の詳細を学ぶことが本講義の目的である。ヒトはどの様に形作られて生きているのか、随意運動とは何か、不随意運動とはなにか、また、形態形成により人体が造られ、器官の形態は運動機能を生み出し、機能は形態に規定される。同時に、様々な疾患により運動器の構造がどの様に変化するかについても理解し、今後学ぶ診療画像解剖学のための基礎づくりを目指す。						
準備学習	毎回の授業について少なくとも1時間程度の予習・復習をすること。						
授業計画	回	授業項目	到達目標・学習内容				
	1	人体構造学総論	到達目標:人体外部と内部の三次元構造とそれらに対する学術用語を理解する。 学習内容:人体の区分、方向を表す用語、解剖学的基礎事項を学習する。				
	2	骨格系(骨、関節、筋)の基本構造	到達目標:骨・筋の構造を関節を含め理解する。 学習内容:各部の骨の名称、関節、筋の構造とその分類について学習する。				
	3	頭蓋骨とその構成、表情筋と咀嚼筋	到達目標:頭蓋骨と脳の関係、表情筋とそれらの働きについて理解する。 学習内容:上記の構造と働きを学習する。				
	4	上肢帯骨と上肢帯の筋、上腕骨と上腕の筋	到達目標:上肢帯と上腕の働きについて理解する。 学習内容:それらの構造と神経支配について機能と関連付けて学習する。				
	5	前腕の骨と前腕の筋	到達目標:前腕の働きについて理解する。 学習内容:それらの構造と神経支配について機能と関連付けて学習する。				
	6	手の骨と手の筋	到達目標:手と指の働きについて理解する。 学習内容:それらの構造と神経支配について機能と関連付けて学習する。				
	7	体幹と骨盤の骨、脊柱の骨、それらに着く筋	到達目標:体幹と骨盤、脊柱の構造と働きについて理解する。 学習内容:それらの構造と神経支配について機能と関連付けて学習する。				
	8	下肢体の筋(内側と外側面)大腿骨と大腿の筋	到達目標:体幹と骨盤、下肢体と大腿の働きと構造を理解する。 学習内容:それらの構造と神経支配について機能と関連付けて学習する。				
	9	下腿の骨と下腿の筋	到達目標:下腿の働きと構造について理解する。 学習内容:それらの構造と神経支配について機能と関連付けて学習する。				
	10	足の骨と足の筋	到達目標:足の働きと構造について理解する。 学習内容:それらの構造と神経支配について機能と関連付けて学習する。				
	11	神経系の構造 (神経解剖学総論)	到達目標:中枢神経系と末梢神経系について理解する。 学習内容:神経系の構造、神経回路網、ニューロン、シナプスを学習する。				
	12	中枢神経系の構造	到達目標:大脳、間脳、中脳、橋、小脳、延髄、脊髄の働きと構造について伝導路も含めて理解する。 学習内容:それらについて学習する。				
	13	大脳皮質の構造と細胞構築学	到達目標:大脳皮質の機能局在とブロードマンの52領域の構造と働きについて理解する。 学習内容:それらについて学習する。				
	14	末梢神経系の構造とその働き	到達目標:脳神経と脊髄神経の走行と標的器官の相互の位置関係と働きについて理解する。 学習内容:それらについて学習する。				
	15	自律神経系の構造とその働き	到達目標:交感神経と副交感神経系、内分泌ホルモン系の働きについて理解する。 学習内容:それらについて学習する。				
成績評価の方法・基準	期末試験(90%)、小テスト(10%)						
教科書	医療のための脳・神経解剖学の基礎。目でみる人体解剖。(図譜)		齋藤基一郎、王昌立、後藤保正 齋藤基一郎、王昌立		元就出版 廣川書店		
参考図書							
教員からのメッセージ	口頭での質問と小テストを行います。しっかりと予習と復習を行って授業に臨んで下さい。						